

令和4年度 第1回臼杵市総合教育会議 会議録

開催日時	令和4年10月4日(火) 10時00分開会(～11時40分開会)	
開催場所	臼杵市役所 全員協議会室	
出席者氏名	<p>臼杵市長 中野五郎                  臼杵市教育委員会                  教育長 安東 雅幸                  委員 神田 岳委                  委員 村上 睦美                  委員 佐藤 雄一                  委員 木本 邦治</p> <p>(事務局)                  秘書・総合政策課長 安東 信二                  総括課長代理 池平 勇人                  秘書・総合政策課 主査 成田 裕樹</p>	<p>(教育委員会事務局)                  教育次長兼教育総務課長 後藤 誠也                  学校教育課長 新名 敦                  社会教育課長 川辺 宏一郎                  学校教育課参事 麻生 幸誠</p>
欠席者	なし	
会議事項	<p>1. 開会                  2. 議題                  (1) 幼小中一体教育の推進について・・・学校教育課                  (2) 学力向上の取組について・・・学校教育課                  (3) 臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会について・・・学校教育課                  3. その他                  4. 閉会</p>	
開会 (事務局) 秘書・総合政策課長	<p>皆様おはようございます。                  会議を始める前に、配布資料の確認をお願いします。次第、説明資料及び臼杵市学校教育指導方針(全体像)、資料1～資料3までです。お手元に揃っておりますでしょうか。                  それでは会議を始めます前に、本日は傍聴を許可していますが、今のところ傍聴の方はおりませんのでご報告いたします。                  本日司会を務めさせていただきます秘書・総合政策課長の安東と申します。よろしくお願いたします。                  まず初めに、新しい教育委員になられた方もいらっしゃいますので、本会議の設置について簡単にご説明をさせていただきます。                  先ほど、配付しております説明資料の「臼杵市総合教育会議について」をご覧ください。平成27年の4月に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行されまして、地方公共団体の長と教育委員会が、相互の連携を図り、より一層民意を反映した教育行政を推進していくため、すべての地方公共団体に、総合教育会議の設置が義務づけられました。</p>	

この総合教育会議は、市長と教育委員会の執行機関同士が十分な意思疎通を図り、教育の課題やあるべき姿を共有して、重点的に講ずべき施策について協議・調整を行う場でありま

す。  
また左下赤枠で囲んでおります、本市における、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その基本理念や施策の根本となる5つの方針を定めた臼杵市教育大綱を定めております。

この大綱のもと、家庭・学校・地域と連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくこととしております。簡単ではございますが、総合教育会議の概要説明であります。

それでは、ただいまより令和4年度第1回臼杵市総合教育会議を開催いたします。開催にあたりまして、中野市長より、ごあいさつをいただきたいと思

市長

皆さんおはようございます。

教育委員の方には、第1回目の総合教育会議をお願いしたところ、全員のご出席いただきまして誠にありがとうございます。

まず、この総合教育会議の趣旨につきましては、担当課長の方から説明がありましたように、教育委員会の教育行政施策は多岐にわたりますが、もっと広く、市民の声をここに取り入れて、各部局と連携しながら、教育の実を上げていこうと、そういう趣旨のもと平成27年4月に法の一部改正という形で行われたと認識をしております。

様々な意味で子育て環境は変わってきております、多面的に物事を見て教育委員と意見交換をすることで、よりよい臼杵の子どもが育つ環境づくりにつなげていければと思

っています。  
私自身も、住み心地一番のまちづくりという形で、市政を担当させていただいておりますが、臼杵の宝は何かと考えたときに、例えば、歴史的な町並みとか、国宝石仏とかを想定すると思

いますが、臼杵の宝は、臼杵を担い、臼杵を変えていける力を持った人材であることが、一番力になるものだと思

っています。  
これから一層発展させていくためには、教育委員会の皆様方のお力をいただければと思

っています。全国的にあるいは世界的な流れの動向を踏まえて、臼杵の子育て、人材育成を取り囲む環境をしっかりと把握して深めていく上では情報交換を行い、お互い理解していくことは、大切ではないかと思

っています。  
例えば、家庭内の事に他人はなかなか入れない、入ってはいけないという様な一つの見方

もありますし、また子供たちにとって、まさにヤングケアラーと言われていきますように、例えば、障がいのある妹や弟を世話するのが、当たり前になっていて、そのことが、健全な活動や人間性を養う時期に、大きく制約を受けて生活をしている子供もいると思

いますし、当たり前と思

っていて、苦しさを認識しながら外に発信することできない子どもたちに対してどのようにサポートしていくのか、その地域で義務教育を担うわれわれ大人の責任ではないかと思

っています。  
また一方では、臼杵市への移住者は、この7年間で1,500人を超えてきています。

毎年200数十人の人が移住しており、その理由をアンケート等で見ますと、子育て環境がよいというのがあります。また、1,500人を超えるうちの7割が、30歳代以下の人たちです。

臼杵で子育てしながら、これからどう伸ばしていくのかを考えたときに、子育ては、子どもの健康づくり、子どもの健康をめぐる環境づくり、子どもの福祉をめぐる環境と、子ども

	<p>の教育をめぐる環境であり、しっかり連携して、相乗効果が上がるような取り組みをしていくことが、子どもたちにとっても子育てする親にとっても、住みよい白杵につながっていくものと考えます。いわゆるシナジー効果が上がるような仕組みをどう作っていくか私を含めて、委員の皆様方も一緒になって考えていく課題であると思っています。</p> <p>子供をより健やかな環境で育てる上で、何が求められているのか、どういう政策が必要なのか限られた時間ですけれど、情報交換しながら、次の政策に生かしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>秘書・総合政策課長</p>	<p>それでは議事に入らせていただきます。</p> <p>なお本日の会議の終了時刻は11時30分を予定としておりますので、進行にご協力お願ひいたします。それでは議事の進行につきましては、本会議の議長であります、中野市長にお願ひいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは早速、議事に入らせていただきます。</p> <p>現在の取り組み状況として本日は3点の議題について、それぞれの担当から説明を受け、意見交換をしたいと思っています。何卒皆様方のご協力をよろしくお願い致します。</p> <p>なお、本日の議事は、記録をとりますので、ご発言される委員は挙手の上、マイクをお持ちになって、ご発言をいただきたいと思っています。</p> <p>それでは、議題1の「幼小中一体教育の推進について」学校教育課より説明をお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>議題1の「幼小中一体教育の推進について」説明させていただきます学校教育課長の新名であります。では座って説明させていただきます。</p> <p>資料につきましては、資料1と前の方でスライド上映いたしますが、同じものですので見やすい方で見ていただければと思っています。</p> <p>まず、白杵市幼小中一体教育の推進ということですが、この中で幼小中及び小中の言葉が出てきますが、教育委員会は管轄が小学校、中学校であります、やはり幼児教育施設・小学校・中学校が一体として進めるということで幼・小・中と言っています。認定こども園、幼稚園、保育園すべてを含めて、幼ということでご理解ください。</p> <p>続きまして、白杵市の学校教育指導方針になります。</p> <p>白杵の未来をたくましく拓き、超スマート社会をしなやかに生き抜く、白杵っ子の育成ということで、「たくましさ」「しなやかさ」、これが子どもに求められることと、超スマート社会というキーワードが入っていますが、今後、訪れる社会は我々が思っているようなことが通用しない、例えば、今ある職業の大半がなくなったり新しいものが生まれたり、または、現実空間と仮想空間が高度に融合するとか、とても想像ができない社会になってくると考えています。</p> <p>そのような中、知識とか技能だけではなくて、児童生徒が「たくましく」「しなやか」に行動できるためには、知識、技能、思考、判断、表現力、または生きる力の育成が大事であるということから進めているところであります。</p> <p>そして、重点施策については、幼小中一体教育を基盤にした学校・家庭・地域・行政をつなぐ横断的教育、この教育の「きょう」はひらがなで書いていますが、意味としては、3つの教育、郷土の郷育と協力の協育、そして響き合いの響育、そしてプラス、今日育ですが、機を逃さない教育、今日するべきことは、今日しっかり教育するという、このネットワークの構築ということで進めています。</p> <p>それと幼小中一体教育ですが、一貫教育という言葉がありますが、小学校・中学校がカリキュラム、教育課程をつなぐというのはありますが、白杵市では、それだけではなくて、横</p>

のつながり、地域であるとか、保護者の方であるとか、そのようなつながりも含めた意味で、幼小中一体教育という言葉 키워ドにしながら進めているところでもあります。

続きまして、臼杵市の小学校・中学校、そして幼稚園のつながりではありますが、全5ブロック中学校区になります。

中学校5ブロックは、中学校そして小学校、幼児教育施設を並べたときに、それぞれのブロックには、かなり特徴いわゆる強みがあると考えています。

例えば北ブロックでは、北中学校に5つの小学校から上がってきます。そして、近隣には3つの幼児教育施設があります。

一方、東ブロックでは、東中学校には福良ヶ丘小の少人数と、臼杵小学校が上がってきます。そして3つの幼児教育施設、南ブロックは、1小学校1中学校という特徴があります。西ブロックでは、西中学校に3つの小学校、これは比較的規模の大きい小学校3校から上がってきますし、4つの幼児教育施設があるということ。野津ブロックは、野津中学校に3つの小学校から上がってくることに、3つの幼児教育施設があります。

それぞれの特徴、強みを生かしたブロックごとの特性を生かした幼小中一体教育ということで考えています。

そして、推進の絵ですが、この3つ、小・中連携、小・小連携、そして幼児教育と小学校教育の連携・接続ということが、今日説明する上でのキーワードになろうかと思ってお示しています。

そして本日のアウトラインですが、ビジョン1は「揃える」です。ビジョン2が「幼小の連携強化」、ビジョン3が「ブロックの特性を生かす」ということで、少し具体的などころをお話したいと考えています。

まず、ビジョン1というところですが、「揃える」というキーワードですが、よく中1ギャップということが言われています。

小学校での学習活動と中学校での違いの部分から、うまく馴染めないという状況から全国的に中1ギャップということが言われています。

それについては、臼杵市としましては、小中一体の中で様々な活動を通じて、その解消を目指すというところです。

例えば、具体的には板書の仕方、課題は赤で書いて、まとめは青で書くとか、家庭学習の手引きを作成する、または、行事を連携するなど通じて、中1ギャップの解消に取り組んでいます。

次の小中一体教育については、平成26年から北中学校区からスタートしました。その枠組みの図になってはいますが、ここでお示した小中一体教育については、ただ小学校・中学校のつながりだけではなくて、小学校、地区、保護者、それが一体となって、小・中の連携または小・小の連携、または地域との連携、地域間の連携の取り組みをスタートしたのが平成26年からとなります。

そして学校教育ですが、学校教育でつきたい力・能力を考えた場合、教育活動は学校だけでは完結しません。

学校だけではなくて、家庭・地域が一体となって取り組むことで、つきたい力がつくということから、この小中一体教育を進めています。

そして、この小中一体教育を進めることを全教職員が理解していくことで、学校のミッション、または学校の強みというのを理解しながら効果的な教育を進めるということが、この小中一体教育の肝としてスタートしたことになります。

続きまして、一つの例になりますブロックごとに様々な例がありますが、例えば、西中学校ですが、西中の学習スイッチでは、これはある意味、生徒と子供が決めた学習ルールということになります。生徒と先生たちが一緒にどのような学習をするか、どのような授業に作り上げるか考えることによって、キーワードとしてまとめたのが「学習スイッチ」というこ

とになります。

この学習スイッチをもとに、中学校として進めるということが一つ、また、小中一体教育の中で中学校だけ行うものではなく、中学生が小学生にこの学習スイッチのことを説明し、小学校でも授業ルールについて自分たちで考える場を設定して、小・小の繋がりも意識した取り組みにつなげています。

また、小学校でこの話を聞いた後に、小学校6年生がリモートで繋いで、自分たちの取組について相談するという場を設定すると聞いています。また、他の学校では授業ルールを見直したり、さらに強化したりと、ブロックごとに進めているという状況になります。

続きまして、ビジョン2ですが、「育ち」の理解を深めるための幼小の連携の強化ということになります。

幼児教育アドバイザーや幼小連携推進コーディネーター等が核となり、就学支援、幼児教育施設から小学校に上がる場面での支援の充実、そして、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム等のスタンダード化により内容の充実を図ります。アプローチカリキュラムとは、幼児教育施設から小学校に上がる前に、このようなことを揃えましょうというカリキュラムです。

また、スタートカリキュラムということは、幼稚園から入ってきた子たちの活動をスムーズにつなげるためのカリキュラムということになります。

これが幼児教育と小学校教育の接続・連携の図になりますが、幼児就学支援充実のための取り組みになります。

特に説明したいのは、6月の幼小接続連携協議会のこと、7月の夏のスマイル学習会のことで、先生のつながりになりますが、それを通して10月に学校ごとに幼稚園、こども園の子どもが学校に来て、就学児の健康診断等を行っているという状況であります。

次のスライドについては本年度に行ったものです。

6月10日に市内9校において、保育園等の先生が小学校に行き、保育園等から卒園した子どもの授業を見ている様子になります。

その様子を見た後に、学校ごとに情報交換と意見交換を行う、各学校オンラインでつないでもっと広く意見交換をするという形で広がっています。

続きましては、この幼小接続連携協議会の先生たちの感想を抜粋したものです。

小学校の先生の感想として、例えば、昨年度までお世話になった園の先生方に、1年生の成長を見ていただき、園での話を伺うことで、これまでの育ちの情報が得ることができた。このような、関係づくりの構築に役立ったという肯定的な意見、園の先生の感想では、早い段階から連携の機会が多くあり、ここ数年とてもいい方向なのではないかと思えます。

今年度は、授業参観も申請すれば見に行けるということなので、利用できたらと思えます。小学校と幼児教育施設が行き来できるという環境をしっかりと作りながら、お互い子どもの発達成長を見守るという活動を幼小中一体教育の中で続けているところです。

続きまして、「夏のスマイル学習会」のことで、7月27日に行いました。

これは、小学校の先生が園に行き園での様子を見たり、そして意見交換をしたりすることによって、幼児教育の実態から学ぶという取り組みになります。

今回は、各小学校が54人の児童が参加しましたが、本当は100人以上行く予定でしたがコロナ禍の中、人数を制限させていただきました。

続きまして、スマイル学習会の感想であります。特に中ほどでは、小学校に引き継ぎたい、この様子を崩したくないと思いました。小学校でも主体的、対話的で深い学びを目指している中、認定こども園の実践の中にそのような姿があり、本当に勉強になりました。子どもの姿を通じて学べたといういい例だと思えますので、今後しっかりと続けていながら、幼小のつながりを作っていきたいと思えます。

続きまして、小中一体教育のビジョン3ですが、中学校ブロックごとの特性を生かしたカ

	<p>リキュラム・マネジメントの推進ということで、ブロックごとの特性・良さを生かした教育課程の実施であります。今日は、野津ブロックのを中心にお話をしたいと考えております。</p> <p>これは野津ブロックの幼小連携の取り組みですが、野津ブロックは、野津幼稚園と小学校が併設しておりますので、日常的な取り組み、そして、5歳児と5年生の5.5連携ということで、体験入学を行ったり、スムーズにつながりということ、また、保護者学習会と体験給食ということで、食をテーマに学習会等の取り組みを行っているところです。</p> <p>また、野津地区にある3つの幼保認定こども園の園児が野津小学校1年生と交流するという形で、早めに小学校に慣れるということと、1年生になるという意識を持たせるということから、このような交流の活動を続けているところです。様々な活動例として、園の先生による体操・ダンス、小学校の運動場で遊ぶ、秋祭りを行う形で楽しみながらつながりを作っていくという取り組みを行っています。</p> <p>続きまして、野津ブロックの小小連携ということになります。中学校に入る前の段階から様々な活動を一緒にすることで、同じ野津っ子として、今後中学校で頑張ろうと一緒に取り組むという意識を醸成するということからつなげています。特に合同社会見学の実施、6年生合同授業の取組、6年生合同校外体験学習の取組をしています。そして小学校の修学旅行がもうすぐ始まりますが、小学校では団を組むときに、中学ブロックを意識して同じ団になるように組んでおります。また、少しでもふれあいの場を広げるという工夫も行っています。</p> <p>また、野津ブロックの小中連携では、野津ブロックの目指す子供像「15の春の自立」野津を愛し、かしこく、やさしく、たくましい児童・生徒の育成というところで、「豊かな学び創造プロジェクト部会」「豊かな心育成プロジェクト部会」「自立基盤育成プロジェクト部会」を、それぞれ立ち上げながら、先生と連携をしながらブロックごとに様々な企画、会議を持ちながら、取り組んでいます。</p> <p>以上短い時間ではありますが、臼杵の幼小中一体教育に説明をしていったところではございますけれども、さらなる充実・深化のために、特にブロックごとの特性を生かしたという話をしましたが、臼杵ならではの、臼杵の強みを生かした、学校のあり方、学校・家庭・地域・行政のつながり、一番ベースになるのは人材育成だと思っています。</p> <p>重点施策としては、幼小中一体教育を基盤にした3つのきょう育プラス今日育ネットワークの構築であります。この点について、ご意見いただければと思っていますのでよろしくお願ひします。</p>
市長	<p>学校教育課長から、幼小中一体教育の推進について様々な事例について紹介をいただきました。何か質問がありますでしょうか。</p>
村上委員	<p>説明ありがとうございます。</p> <p>1つ質問ですが、幼小中一体教育ビジョン2のところ、幼稚園から小学校に上がる時に、これはできるようにということで、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムなどのスタンダード化により内容の充実を図るという説明がありましたが、カリキュラムの一覧表とかはありますか。</p>
学校教育課長	<p>質問にお答えします。</p> <p>スタンダード化という形でカリキュラムは、出来上がっていますので、具体的なものはあります。</p>
村上委員	<p>今日はお示ししていませんが、定例教育委員会のときに質問しましたが、保育園、幼稚園</p>

	<p>から小学校に上がる前に、保護者がどれだけのことができないといけないかというのを、分からないので、一覧表とか、例えば、生まれたときの母子手帳みたいな感じで、これだけできないといけないという一覧表があればと思っていますし、その一覧表があれば、保護者に配布していただきたい。もし配布しているのであれば、どのタイミングで配布しているのか教えてください。</p>
学校教育課長	<p>配布はしていませんが、幼児教育においては、文部科学省、厚生労働省でも、「10の姿」ということで示しているものもあります。ただ、絶対にこれができないといけないと捉えられると、それは違っておりまして、もともと幼児教育については、幼児期に育んでほしい姿を示しているもので、配布については、例えば、これができてないと駄目とかいう誤解が生じる場合がありますので、よく説明して配らないと難しい点もあります。</p>
村上委員	<p>配布を希望している保護者が多くいても駄目ですか。</p>
学校教育課長	<p>幼児教育については、園ごとに配る方法等もありますので、検討する必要があると思っています。</p>
村上委員	<p>誤解も多分あるかと、できなければいけないと思う保護者もいるかと思いますが、母子手帳には1歳児のときには例えば握れるようにとか、あることができますかできませんかみたいな質問事項もあります。だから大体の目安として、保護者は自分の子供が小学校に上がって、細かいことも、できなければいけないのか、できなくても学校が教えてくれるのか、そういう不安なところがあるので、私はこれを聞いたときに、すてきなことを考えてくださっていると思いました。</p> <p>保護者の方にも、カリキュラムの一覧表があると言ってあげた方が安心すると思ったので、意見として出させていただきました。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございます。配布については、教育委員会だけでなく、幼児教育施設に関わる先生も多くいますので、このような交流の場で意見を聞きながら進めたいと考えています。</p>
村上委員	<p>よろしくをお願いします。</p>
市長	<p>2つ聞きますが、そのビジョン1の「揃える」について説明いただきましたが、この言葉について説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>小中一体教育が始まる前は、小学校は小学校、中学校は中学校で、それぞれがある意味、勝手な授業をしている。また、学級活動を進めているという現実があったと考えております。</p> <p>例えばチャイムが鳴る5分前には机につくなど様々なルールがありますが、例えば、北中学校区であれば小中連携の中で、学習規律、または家庭学習はこのようにしますとか、基本的な生活習慣については、このことに気を付けましょうということは、それぞれが勝手するものではなく、見通しを持てるものを示すという意味で、「揃える」という言葉を使いました。</p>
市長	<p>「揃える」という言葉で、画一的にこう決めて押し付けることではなく、一緒にやりましょうと感じていただくことは分かりました。</p> <p>もう一つ、この幼小中一体教育は平成26年度から積み重ねきた実績を今、紹介していた</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>できました。こういう取り組みは県下どこでもしていますか、</p> <p>小中一体教育のキーワードについては、ある意味、臼杵独自のものと思っています。</p> <p>他市町では、併設型であるとか、連携型であるとか様々な一貫教育という形はありますが、臼杵市では、幼小中一体となって、また、学校だけではなくて、家庭・地域も一体となって育てるというところから、ある意味、臼杵市独自のキーワードとして定着してきていると考えます。</p>
<p>市長</p>	<p>これからの教育は、地域とともにある学校になると思います。授業に関しても、例えば先生だけではなくて地域の力を借りないと成立しないことがあることは、先生も認識していると思います。その地域の中心になる学校をサポートし地域の学校を育てる地域力もなくなると決していいことではないということで、18 学校区に地域振興協議会を作ってきました。</p> <p>その地域振興協議会にとって、ぜひ3つのことを、活動の柱にして欲しいと思います。</p> <p>一つ目は、地域を挙げて子供を育てたい、育てることにつながる活動をして欲しい。二つ目は、高齢化が進み一人暮らしとか老人世帯が増えていく中で、地域で高齢者を支え合うような、お年寄りや孤独や孤立しないような活動をして欲しい。三つ目は、地域にあるお祭り、文化祭、スポーツ大会に取り組むことで、地域の人と一緒に汗をかき、地域のコミュニケーションや連帯感が生まれるようなものを、地域の今までの経験や実績、歴史とかを踏まえた上で取組んで欲しいと思います。</p> <p>部活の地域化においても、学校だけではすまないような問題でありますし、基本的な課題で地域と共通していることと思いますので、教育委員会の委員はじめ、学校現場の校長の力量も関わってくるとと思いますので学校現場と教育委員会との連携を図り、子どもにとって良い方向でプラスになるような、環境づくりも必要と思います。</p>
<p>市長</p>	<p>次の方に進ませてもらいたと思いますが、「学力向上の取組み」について、説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、資料2をご覧ください。</p> <p>まず大分県学力定着状況調査の結果についてです。</p> <p>これは4月26日に、小学校5年生の国語、算数、理科の3教科及び中学校2年の国語、数学、理科、社会、英語の5教科で実施したものです。県の学力調査については、偏差値で示していますので、目標としては偏差値50を確実に超える、ある意味、学力保障をすることが、県の学力調査のミッションということになります。</p> <p>小学校、中学校ですが、臼杵市、大分県、県との差ということで示していますが、黄色網掛けをしている部分については、大分県の平均値を超えたものに黄色網掛けをしています。</p> <p>大分県も、ほぼ偏差値50を超えています。臼杵市は、すべての小学校、中学校そして教科において偏差値を上回ることができました。この下が偏差値の推移ということになります。</p> <p>一番右が、令和4年度の偏差値の推移ですが、すべての教科で上向き傾向で進んでいる状況になりますが、次の2ページは、年度推移を示したデータということになります。2ページ下が、臼杵市の偏差値の推移を、平成24年度から令和4年度を、折れ線グラフで示しています。まず、小学校の偏差値の推移を見ますと、9年連続で3教科と偏差値50を超えました。特に今年は、算数について過去最高値を示すことができたということが特徴にあります。</p> <p>一昨年度は落ち込みがありましたが、昨年度さらに回復が見られたということで、小学校5年生と中学校2年生が受けますが、臼杵市児童生徒の人数が多いわけではないので、学年</p>



によって多少差はありますが、概ね上向き傾向という形で学力向上が図られていると考えています。

そして右の方が、中学校ですが、昨年度少し落ち込みがありました。全教科で飛躍的に伸びているということ、どの教科も高い数値を示していますが、特に、数学と社会は過去最高値を示すことができ成果を上げております。

それについては、小学校では、半日勤務の教員3人を、下北小学校、下南小学校、野津小学校に配置して、小学校の算数では、2クラスに分けて習熟度別の指導という形で、少人数で子供の理解度に応じた指導を昨年度から徹底しているということが成果につながっていると考えています。

続きまして、3ページが、これは全国学力・学習状況調査結果の一覧です。上の段が小学校です。下の段が中学校の結果ということになります。小学校ですが、この全国学力・学習状況調査については、偏差値ではなくて平均正答率という数字で示しています。

全国学力・学習状況調査では、全国と県と市を、正答回答率がどれくらいの差があるかという形で比べていますが、小学校については、全国、大分県、臼杵市と見たときに、大分県は全国を上回っていますが、臼杵市はその県をさらに上回るという結果になっています。大分県の結果は新聞報道のとおり、県は、中学3年生では九州で1位、小学6年生では九州で2位という大分県の結果が出ていますが、県の結果と比べても臼杵市は、小学校でも上回っていますし、中学校についても、県の平均、全国の平均を上回ることができており、県下で見ても上位に入るぐらいの成績を収めることができました。

続きまして、資料の4ページになりますが、これが全国学力調査の臼杵市の折れ線グラフになります。特に小学校は、昨年度少し落ち込んだところがありますが、そこから回復をしているということ、中学校もかなり年度ごとに改善が見られるという結果が出ています。

続きまして、5ページ、6ページは、これは全国学力・学習状況調査時の、児童・生徒質問紙という形で様々なアンケートを答えるものになっています。傾向を見ますと、小学校6年生では、基本的な生活習慣が身につけているということ、各教科の愛好度は全国と比べ低い、理解度はかなり高い傾向にあるということ。それと規範意識は高いということ、読書が好きな児童は多いが、読書時間が多いとは言えないということ。

また一方で、難しいことにも進んで挑戦とか、困っている人を進んで助けるなどの積極的に行動することが得意でない児童がいるということ、自己肯定感が低い児童がいるということ、新聞を読む児童が少ないということ、小学校6年生の傾向では、多くの項目で肯定的な意見は、全国とほぼ同じ傾向であります。どちらかといえば、少し慎重な児童が多い傾向が見られます。

また、読書が好きだけでも時間が多いとは言えないということについては、コロナ禍で図書館の入場制限など密にならないように学校では工夫をしていますが、そのことが影を落としていると思います。

続けて、中学校3年生については、かなり肯定的な意見が多くて、友達と協力してよりよい学級にしようとする生徒が多いとか、人が困っているときに進んで助けたり人の役に立つ人になりたいと考えたりしている生徒が多いとか、学んだことを生かしながら考えを求めたり、新しいことをつくり出そうとする生徒が多い。またICT機器を使うこと勉強に役立つと感じている生徒が多いとか、肯定的な受けとめが多い傾向にあります。

また一方で、各教科を学ぶ必要性や理解度はあるが、各教科を学ぶ必要性や理解度はあるが、愛好度は全国と比べて低いということで、やはり学習が好きということを高めることが今回、課題として出てきていると考えております。

また小学校と同様、本や新聞を読む生徒が、そんなに増えているわけではないですが、わずかに全国値を上回っていないというところは、今後の取り組みが必要であると考えております。

	<p>また、地域行事に参加したり、地域をよくするために何かすべきかと考えている生徒が少ないということで、やはりコロナ禍で地域行事等がここ2、3年少なくなっているということから、今後見直す必要があるかと考えております。</p> <p>また家で計画を立てて勉強をすることを苦手としている生徒が多いこと、テストの問題を解く時間が足りないと思う生徒がいることが課題として出てきています。</p> <p>このことから、臼杵市の児童・生徒質問紙の調査結果を踏まえての取り組みですが、学校では新大分スタンダードこれは県の取り組みですが、この授業をしっかりと取り組みながら、特に「生徒指導の3機能」児童生徒に自己選択、自己決定をさせるということ。そして、自己存在感を持たせる、または共感的人間関係を作り出すというところから、ある意味、基本的なことにはなりますが、そのような取り組みをしっかりとすること。</p> <p>そして、2つ目は、本や新聞を意欲的に読んだり、ICT機器を学習に生かそうとする児童、生徒が、まだまだ少ないので、ここは意図的に活用する場を設けるというところから、進めていきたいと考えております。</p> <p>また、3つ目ですが、家庭学習に関する課題に対しては、学校だけではなくて、児童会や生徒会及び保護者と連携したゲームやSNSに関するルールを家庭で決めるなど、学校と連携して実施したいと考えています。</p> <p>最後のページですが、学校質問紙は、学校の先生たちが答えた回答になっています。</p> <p>結果として総体として言えるのは、ICT機器の活用については、小・中学校の先生は意欲的には高いということだと思います。</p> <p>ICT機器を活用して授業に生かすというところ、そこはしっかりできていると考えますので、継続していきたいと考えています。</p> <p>特徴的なこととして、中学校の学校質問紙の中ほどの校内研修のところですが、生徒自ら課題を設定し解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったでは100%肯定的ということ、授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組めること、資料や文章、話の組み立てなど工夫して、発言や発表を行うことができること、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができるなど高い数値となっていることから、ここは継続して取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>幼小中一体教育を行っていますが、さらに互いの教育を共通理解し、教育課程について協議するなど行っていく必要があります。先ほども言いました学校だけでは解決できない様々な課題、学習内容がありますので、そこは意識して学校・家庭・地域が連携して取り組むということ、学校自ら発信して行っていくことが大事と考えております。</p> <p>また、ICT機器の有効活用に向けた環境整備を積極的に進めているところですが、今後、ICT機器の活用も含めて進めてきたいと考えています。</p> <p>市長 2番目の学力向上について説明がありましたが、質問意見等ありましたら、教育委員から出していただきたいと思えます。</p> <p>村上委員 生徒質問紙の中で、「テストの問題を解く時間が足りないと思う生徒が多く、時間配分を上手くできない生徒がいる」というのが、成績がいい割には、このような生徒がいるんだと思いました。中学1年生の時にテスト勉強の仕方の指導とかは学校では行っているのでしょうか。</p> <p>学校教育課長 少なからず、このような児童生徒がいるということについては、学校ではしっかりと時間配分については指導しているところです。</p> <p>4月中旬に行われているテスト結果でありますので、この結果を受けて、そう感じた生徒については個別に指導している状況であります。</p>
--	---

木本委員	<p>先ほどの小中一体教育という地域・家庭・学校の連携にも関わりますが、学校質問紙を見ますと、小学校は、保護者や地域の人との協働による活動の実施が高い評価になっており、逆に中学校は、学校外施設とのやりとりが低いと評価にあります。</p> <p>中学校が低いのは、地域振興協議会が小学校区でほぼありますが、小学校は、地域振興協議会事務局に相談することで活動しやすいとか、地域振興協議会も小学校にこういう行事があるけれど協力してもらえないかと言いやすいところもあると思うので、臼杵での生活経験の少ない教職員の方も多くいますので、地域・家庭・学校と連携して子どもを育てていくという活動が、お互いにWin-Winになることから積極的にした方がよいと思います。</p> <p>それから、実際に地域と学校をつなぐ役割をある程度、回り出すまでは、教育委員会がリーダーシップを取りながら行っていく必要があると思います。</p>
市長	<p>2つ聞きたいのですが、社会教育課長、社会教育の中で地域と学校をつなぐ協育コーディネーターを養成してきていますが、中学校とはあまり関わらないのですか。</p>
社会教育課長	<p>協育コーディネーターは中学校ブロックごとに配置しておりますが、コロナ禍で学校での活動がしにくい状況がありまして、年間1回程度の活動にとどまっています。</p> <p>また、各地域の活動に合わせた、それぞれの取り組み等の支援を行っている状況です。</p>
市長	<p>中学校と地域をどうつなげていくかということも、協育コーディネーターの役割としてはあるということですか。</p>
社会教育課長	<p>そうです。</p>
市長	<p>市内学校のすべての教員のうち、市外から通勤している教員は何割ぐらいですか。</p>
教育総務課長	<p>市内学校の教員の45%は市内通勤者、学校長は約3分の1、教頭先生は8割近くが市内通勤者となっています。</p>
教育長	<p>小学校には、地域振興協議会、健全育成会、民生委員協議会と様々な組織がありますが、ほとんどの区長会長と区長が組織に入っています。</p> <p>中学校は意外とそれがありません。国がコミュニティスクールを全国の小中学校に設置という動きがあったときに、コミュニティスクールは中学校ブロックで作ろうと、かつて私が校長だったときに提案しました。コミュニティスクールは、学校運営協議会を設置した学校をコミュニティスクールといいます。それまでは学校評議委員会という、地域が学校の運営に関わるような組織がありましたが、これをコミュニティスクールに一本化しようということがありました。小中学校に全部立ち上がるようになりましたが、ほとんどの区長会長と区長を入りますので重複します。</p> <p>これから学校が人口減少により小さくなっていったときに、小学校ごとのコミュニティスクールと中学校ごとのコミュニティスクールも重なってしまって、運営がなかなかできないような状況になります。</p> <p>今後は、コミュニティスクールが立ち上がって、3年しか経過していませんから、一気にとは考えてはませんが、国の流れとしては、もうコミュニティスクールは中学校ブロックでまとめると、個々の学校の会議は、年間に5回あるとしたら、最初と最後は中学校ブロックで、全体のコミュニティスクールの会議を行い、部会において小学校の会議を数回行うなどそのような動きになっています。</p> <p>子どもの人数が減っていく中で、コミュニティスクールをそれぞれの学校で、維持するの</p>

	<p>は非常に苦しい状況になっています。</p> <p>市長が心配された、地域が学校に入ることにアレルギーを持つ教員がゼロとは言いませんが、先日、小学校の運動会を見に行きましたが、地域、保護者、子どもが一緒になって応援したり、運動会の準備も片付けもそうでしょうし、こういう状況の中で、ほとんどの学校の教員は、地域、保護者の協力なくして、学校が成り立たないと理解していると思っています。今後、コミュニティスクール、地域振興協議会、健全育成会、民生委員協議会など組織を見直していくというか、少し集約された形で組織が形成されると分かりやすくなると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>説明を受けた中で、2点確認させていただきますが、1点目のICT教育、ずっとやってきて学力が上がってきていることは分かりますが、自治体間でICT教育の差がありますか。また、授業を展開できないような段階では、最低限維持していくための要請や指導を行うなど環境を整えて欲しいと思います。</p> <p>2点目は、私自身が小学校、中学校の時に子どもが本と親しむのは、子ども自身の人生を豊かにするという意味では大切だと思っています、すべての小中学校に学校図書専門員を導入してきました。また一方では、地域あるいはPTAの読み聞かせも活発で、今も行っています。本日の説明では、例えば小学校では読書時間は多いとは言えないことや、中学校では本や新聞を読む生徒が少ない、読む生徒が少ないとなると、学校の図書専門員という仕組みが上手く機能しているのかなど心配になるし、また、市立図書館との連携による研修など多く行って欲しいと思いました。</p>
<p>学校教育課 参事</p>	<p>ICT教育については、1人1台端末ということで、全国一斉にスタートしましたが、その端末をいかに活用するかで、自治体間に差が出てくると考えています。</p> <p>臼杵市では、今年度、活用方法を強化するために、ICTプロジェクト会議を、毎月定例で、授業力向上アドバイザー、教科担任制の教員、ICT支援員の方を含めまして毎月、議論を行っております。傾向としてやはり50代、年齢が高くなるほど活用慣れていない傾向にあります。</p> <p>ICTに詳しい若い教員もいますが、教えることに遠慮してしまう状況もあるとの話が、ICTプロジェクト会議で意見が出ましたので、校内の成功事例を広く共有して授業力の向上に向けた取り組みを行っています。</p> <p>大分県内では玖珠町、九重町、姫島村とか、比較的小さい自治体は、環境が迅速に進んでいます。臼杵市は、県内でも早い方で、環境が整いつつあるということで、県の担当者から一応評価はいただいています。デジタルドリルが間もなく、家庭での持ち帰りが可能となりますので、また一層促進されるものと考えています。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、読書のことですが、例えば、小学校では読書が好きな児童は多いですが、もう少し読書量が伴えば増えるかなと思っていますが、わずかに低い状況になっています。</p> <p>この結果の取り方が、学校の授業時間以外にということですので、例えば学校では授業中に学習情報センターを活用したり、臼杵は、全国・県下に比べても利用していると考えていますので、学校ごとの図書館専門員の配置は工夫して進めていると考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>ICT教育ですが、極論ですけど、全国的にタブレットが行きわたると、例えば数学にしても国語にしても、多分マーケットとして成立するだろうし、予備校の先生みたいな全国のトップレベルの先生の授業がタブレットに入ってきて、学校の授業で使うことになるのではないのでしょうか。</p> <p>そういう意味では、このICT教育は、これから私が好きだから嫌いだからというレベル</p>

<p>市長</p> <p>秘書・総合政策課総括課長代理</p>	<p>ではなく、子どもの学習力、先生の授業力を高めるためにはどうすればいいかという中では、避けて通れなくなってくると思いますので、先生も自覚してもらいながら有効に使っていただきたいと思います。</p> <p>I C T機材は5年すればもう更新時期に来ると思います。導入は国補助金を活用できたが、更新は自治体で手当しなければならないと考えます。効果が上がっていなければ格差も出てくるだろうし、良い結果を出しているなら何とか財政負担して、これは続けていかなければいけないという I C Tの効果的な活用は、これから大切になると思いますので、ぜひお願いしたいと思っております。</p> <p>3 番目の臼杵市の未来を考える中学生と市町との意見交換について説明をお願いします。</p> <p>秘書・総合政策課の池平です。私の方からは今月 10 月 31 日（月）に北中学校で行われる、北中 3 年生と市長との意見交換会について説明させていただきます。</p> <p>着座にて説明いたします。資料 3 をご覧ください。</p> <p>この意見交換会の実施報告させていただく前に開催の経過について説明させていただきます。</p> <p>中学生と市長との意見交換会については、地域の未来を担う子供たちに、臼杵の現状や魅力、未来を考えてもらおうと学校の協力をいただきまして、意見交換会という形で開催しております。</p> <p>平成 30 年度は西中、令和元年度に南中、令和 2 年度は野津中、昨年度は東中にて開催したところでございます。</p> <p>目的でございますが、1 点目は、自分たちが暮らす臼杵市について自分との関わりや、興味関心のあることや、地域での取り組みを参考にすることで、臼杵市の魅力を再発見し、まちおこしの方法を考えること。</p> <p>2 点目は、総合的な学習と社会科の学習を関連づけ、その成果として、これまでの学習した内容を工夫して、相手に伝わるように発表すること。</p> <p>3 点目は、自分たちが調べて考えた内容を市町と意見交換をする中で、探求的な課題としてさらに発展させ、今後の臼杵市について考え続ける態度を育成することを目的としております。</p> <p>当日のスケジュールといたしましては、各教室で事業参加をした後に、先生の司会進行のもと、7 グループに分かれて、生徒による発表と、生徒からの質問を交えた意見交換会を、1 グループ当たり、11 日の持ち時間で実施する予定としております。</p> <p>なお、1 グループについては、明治大正期の日本経済の近代化に大きく貢献した臼杵市の出身の荘田平五郎氏、今年で没後 100 年となる節目であることから、生徒から荘田平五郎氏の研究成果をプレゼンしていただけるようになっています。</p> <p>昨年実施した東中の制度からの感想は、市長が意見発表に対して丁寧にとくさんの意見を出してくれて、初めて知ったこともたくさんあり、臼杵に住んでいるのに知らないことに気づかされたなど感想をいただき、とても有意義な意見交換会となりました。</p> <p>今年の北中においても、生徒たちが学習過程で得た研究成果を市長と意見交換を通して、将来の臼杵を担う若者として、自らが地域課題の解決に取り組む重要性を感じ取っていただければと考えています。以上で説明を終わります。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今年で 5 回目となります。大変私も楽しみにしております。</p> <p>かつて、高校生議会という形で行ってきましたが、より多くの子供たちに臼杵の現状や魅力、未来像を考えてもらおうと中学生を対象とした意見交換会を実施しているところです。</p>

	<p>地域と向き合って自分たちが課題を見つけながらその調査研究して発表していただき、若い人たちのセンスや若い人たちの考えを私も聞きたいと思います。</p>
市長	<p>それでは、教育委員に今日の感想とか、教育や子供たちまで考えていることあまりやまた、市長部局の方に対する意見や要望等々ですね、踏まえて全員に一言ずつ発言をいただきたいと思います。</p>
神田委員	<p>中学生と市長との意見交換会はとてもよい取組だと思えます。子どもにとって、市長と話すことはとても大切な時間だと思うので、ディスカッションの場があることはよいと思いました。</p> <p>それと、先月の定例教育委員会でも言いましたが、アフターコロナというか、ウィズコロナというか、コロナ禍が治まってきたときに、人事交流、地域の活動が行われていくときに、この形で良かったと思うものは、そのまま生かすなど、例えば、この前の運動会では、午前中で終わりというところが多かったのですが、コロナ収束もしくはウィズコロナ時期もその形でよいのではないかという意見が保護者の方や子どもからも出ているし、そういう良いものはそのまま継続していくことも選択肢としてあると思いました。</p> <p>もう1点は、図書館についてですが、私も10数年、教育委員をしています、図書室は、本を置いているだけのイメージでありましたが、市の施策で図書館専門員を全校に配置した後では、整理整頓されて、見やすい本屋のような、きちんとした図書室ができています。ここ数年、それが当たり前と感じている子どもがいる傾向だと思います。子どもがもっと本を読むように、もっと楽しい図書室をつくっていくにはどうしたらいいか、先ほど言いましたように、図書館専門員の勉強会など必要だと思いますが、きれいな図書室が当たり前になってきたということで、悪い傾向ではないと思っています。</p>
佐藤委員	<p>保護者の立場として、臼杵市学校教育指導方針の全体像を見たときには、すごい取り組みですばらしいと感動しました。</p> <p>野津小学校では、授業を見させていただきましたけれど、もう一つ感動したところは、校内のそれぞれの廊下に本が置いてあって、図書館にわざわざ行かなくても、目の前にある本に触れることができることは、すばらしいと思いました。</p> <p>もう一つは、改善のお願いですが、子どもがスムーズに取り組んでいる場合は本当すばらしい取り組みですが、発達の成長がゆっくりしたような子どもの相談について、子どものサポートを先生方はじめ、幼稚園・小学校・中学校との連携により、1年ごとに担任の先生が変わっても、子どもの様子を伝えるようなことも必要ではないかと思えますし、保護者と教育現場と行政も含めて、コミュニティが図られる相談できる所、相談しやすい環境を、もう少し考えていけたらと思います。</p>
木本委員	<p>「超スマート社会しなやかに生き抜く、臼杵っ子の育成」ですが、知識とか技能も大切だと思いますが、人間としての根っこというか、私は子どもの時に、臼杵のいろんな人にお世話になって育てられました。</p> <p>そういう根っこがあれば、仮に臼杵から離れたところで活躍しても、頑張っていけるのかなと感じていますので、そのような教育が臼杵で実現できればと思います。</p>
村上委員	<p>市長の挨拶でヤングケアラー、経済的問題の子どもがいるというのを触れてくださってありがたいと思いました。</p> <p>ヤングケアラーは表に出にくい。中学3年生であれば勉強時間をとれないなど苦労しているかもしれないので、これからも気をつけて欲しいと思いました。あと生理の貧困対策につ</p>

	<p>いてですが、年に5千円、18校で9万円の予算を確保して配布していますが、各校の児童数に違いがありますので、平均ではなく児童数に応じて配分してもらえたらと思いました。</p> <p>経済的問題の子どもに対しても、奨学金などいろいろ考えていただきありがたいと思います。読書のまちづくりですが、新聞を読まないは、そもそも親が新聞をとっていない家庭が多いので、せめて本でもと思います。親も読まないという環境がないと思います。</p> <p>市図書館野津分館では図書館の利用者が少なく、臼杵市全体の2割～3割の利用者しかいません。もう少し、利用者を増やす方法など勉強会を通して考えていただきたいと思います。</p> <p>本市は読書のまちづくりについて一所懸命に力を入れていますので、これからも続けて欲しいと思いました。</p>
<p>教育長</p>	<p>まず、委員の質問に答えたいと思いますが、佐藤委員の特別支援の充実については、しっかり取り組みたいと思っています。</p> <p>先生から先生とつなげていくことと、幼・小連携の中で、子どもの特性や指導方法など早めに共有していくことは必要だと思っています。</p> <p>特別支援教育支援員の人数を今後、確保していくことも必要ではないかと思ひますし、関係各課との連携も月1回の会議を行っています。その会議を充実していきたいと思ひます。</p> <p>木本委員の根っこを育てるは、郷土の教育にかかっていると思ひます。社会教育課にお願いをして、今まで小学校5年生と6年生が臼杵歴史発見ルート18を勉強して、臼杵っ子検定を受けていますが、小学校4年生から幼児教育までは対象ではありませんでした。</p> <p>臼杵っ子カルタを、ぜひ作って欲しいということでプロジェクトチームを作って、臼杵・野津の歴史的な人物や史跡を加えた臼杵っ子カルタというのを作りながら、幼児教育の時期から始めて、遊びの中で臼杵の歴史に触れていく取り組みを進めています。</p> <p>いずれは、幼児教育施設や小学校だけではなくて、子供たちと高齢者が一緒に遊びながら学ぶ取り組みも考えています。</p> <p>今からは学校単位ではなくて、中学校ブロックで目指す子供の姿を明確にして、地域全体を巻き込みながらコミュニティを維持していくことが、地域共生社会につながっていくと思っています。それぞれの特性を生かしながら、コミュニティを広げていくかは市の施策と関係するところもありますし、教育委員会としても考えなければなりません。関係部局と擦り合わせをしながら考えていきたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>生理の貧困問題に関して各学校に置くようになりましたが、現在の状況はどうか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>先ほど、村上委員の発言にもありました生理の貧困問題ですが、学校のトイレに置くということで、養護教諭を中心に児童生徒に対して、ここに置いています、誰でも使ってよいですと告知をしています。</p> <p>昨年度、防災危機管理課にあります生理用品を各学校に配布した上で、まだ使用数など分かっていませんので、各校に一律5千円ずつを今年度の予算で確保しています。</p> <p>今、使用状況等を確認していますが、本当に使っているのかという、児童生徒への意識づけは必要と思ひます。配布数は、来年度から学校規模や把握した使用数を考慮して、傾斜配分するなど予算付けしたいと考えています。また、学校現場の養護教諭と連携しながら、学校の使用状況の実態が、生理の貧困という背景であるのか調査している状況であります。</p>
<p>市長</p>	<p>木本委員が言われた根っこを育てることは、非常に大切だと思っています。地域の中が育っていくという中で、子どものアイデンティティを形成していく根っこになり、自分の人生の柱となると思ひます。臼杵に住んでいる子供たちが、自立した人間として社会にでて、社</p>

秘書・総合政 策課長	<p>会の中でも頑張れる子どもに育っていただきたいと思います。</p> <p>また、神田委員が言われたウィズコロナで残すものと、新しく作っていくもの、復活するもの、いろいろと取捨選択しながら、よりよい「まちづくり」につなげていくことが大切だと思います。</p> <p>活発なご意見ありがとうございました。終了時間になりましたので、それでは、以上で、本日の議事を終了いたします。</p> <p>事務局に会の進行を戻したいと思います。</p> <p>今日は、大変忙しい中、また、長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして令和4年度の第1回の総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
---------------	--